

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	02	01	0401	森林保全啓発事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》

森林保全の意識啓発

《事業開始の背景》

農業用水の安定供給と国土保全並びに京都議定書森林吸収目標達成に向けた森林整備と農業用水や水資源への理解を深める活動を目的に開始した。

《事業概要》

市民が参加して植樹した樹木の手入れなどの森林作業体験、各種イベントにて広報活動
 11月2日 豊沢川の森市民植樹会に協力
 12月1日 はなまき産業大博覧会において親子木工教室開催
 1月11日 森林のめぐみ体験教室（木工体験コース）

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 各種イベント総参加人数	人	目標	380	200	100
		実績	513	288	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
しごと	農林部	農村林務課	柏葉正和	6277

事業費	25年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
	470				
財源内訳	国庫支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	470			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

● 農業用水水源地域保全対策事業(H20～24)が完了。今年度より単独費による事業展開。
 農業用水の水源確保と地球温暖化防止啓発。森林の多面的機能の啓発。
 自発的な活動への誘導をする。
 体験行事を中心に実施する。

開催したイベント

11月2日 豊沢川の森市民植樹会に協力
 12月1日 はなまき産業大博覧会において親子木工教室開催
 1月11日 森林のめぐみ体験教室（木工体験コース）

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	02	01	0401	森林保全啓発事業

総合計画	政策	地域資源の連携強化で産業振興のまちづくり	施策	2次・3次産業との融合による強い1次産業の育成
	1		1-1	
目的	森林保全の意識啓発			
対象	農業用水と森林整備の関わりについて啓蒙普及を推進、実践したい市民 農業用水の水源地域として保全を要する森林。			
意図	農業用水と森林の関わりについて理解を深められる。 水源林の保全活動を実践できる市民の増加できる。			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

市民が参加して植樹した樹木の手入れなどの森林作業体験、各種イベントにて広報活動
 11月2日 豊沢川の森市民植樹会に協力
 12月1日 はなまき産業大博覧会において親子木工教室開催
 1月11日 森林のめぐみ体験教室（木工体験コース）

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態 共催 実行委員会・協議会 事業協力・協定
 後援・協賛 補助・助成 委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 主催する各種イベントの開催回数	回	計画	4	2	2
		実績	3	2	
② 森林保全啓発活動等	回	計画	5	5	5
		実績	5	5	
③		計画			
		実績			
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 各種イベント総参加人数	人	目標	380	200	100
		実績	513	288	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

森林体験、木工体験等参加者からは身近な体験を通して理解しやすいことから好評を得ている。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

水源地観察の森林観察等の実施要望がある。（以前が開催していた）

目的妥当性	公共関与の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	森林の多面的機能の高度の発揮についての理解を得ていくために、市民と水源林について理解を深めていくための活動であり妥当。
有効性	成果の向上余地 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	継続して事業を実施することで市民の自発的行動（実践）が期待できる。効果の検証を検討することで、より自発的行動を促進することができる。
効率性	事業費・人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	水源林に対する関心を深める事業として計画的に実施している。平成24年度までの事業期間としているので、それまで削減の余地はない。
公平性	受益と負担の適正化余地 <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	市民全体を対象とした事業である。（広報、チラシ等で広く市民に周知している）

《総合評価》…上記評価結果の総括

森林の多面的機能を市民がしっかり認識するため、森とふれあうことなど森林に目を向けさせることが必要である。